

介護予防通所サービスの提供における 目標設定・実績評価について（2023 年度報告）

1. 目的

介護予防通所サービス事業所において、サービスの目的である「利用者の心身機能の維持回復や生活機能の維持向上」に意識して取り組んでいただき、利用者個々へのサービス提供内容を自己分析することで、事業所全体で取組内容の創意工夫や質の向上を目指す。

2. 評価の基準

評価用チェックリスト（15 項目）

理由：「生活機能」、「運動機能」、「栄養改善」、「認知機能」、「うつ」などの心身状態の変化を総合的に評価できるため

3. 概要

（1）年度当初（事前）

- ・利用者（要支援者及び事業対象者）に対して、評価用チェックリストを実施し、利用者の状態を評価する。（年度途中の新規利用者は、受け入れの都度、実施する。）
- ・1年間の利用者全体の状態の維持改善に関する目標を設定する。

（2）年度末（事後）

- ・利用者の評価用チェックリストを実施し、年度当初（事前）と比較し、利用者ごとに改善、維持、悪化の判定を行う。
- ・年度当初に設定した目標の達成状況について要因分析を行うとともに、翌年度の目標を設定し、目標達成に向けた取組を記載する。

（3）年度途中でサービスを中止した方について理由別に人数を集計する。

4. レポート提出数

427 事業所（市外 10 事業所含む）

5. 提出されたレポートの概要・考察

（1）（2）評価用チェックリスト 改善・維持・悪化の割合

チェックリスト実施者全 11,894 人について、改善 3,898 人（33%）維持 4,602 人（39%）悪化 3,394 人（28%）と、昨年度の結果と比較して、悪化の割合が大きく減少した。

（3）終了・中断理由の割合

一番多い理由としては悪化（32%）、次いで入院・怪我（21%）事業所移行（16%）だった。

2022（令和4）年度の目標達成状況・サービス内容の工夫

コロナ禍で進行がみられた利用者の体力低下の改善のため、運動プログラムを工夫している事業所が多く見られた。本人の在宅生活も意識し、個々にあった目標・自宅でできるメニューなどの工夫がされていた。

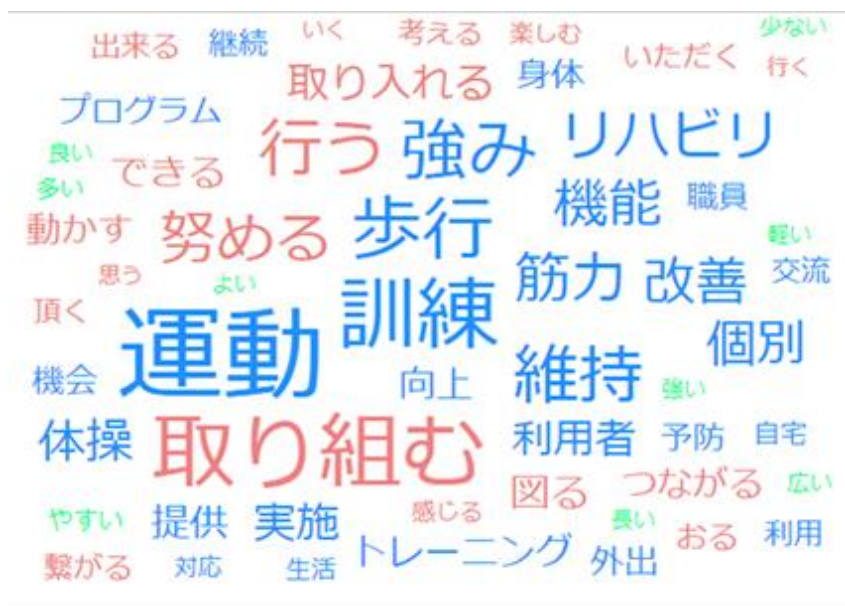
(主な意見)

- ・お休みを少なくして、体調の維持に努め、その後体力の向上を図れるようにする。運動プログラムの改変、改善とケアプランに基づき個々のお身体の状況や生活環境に合わせた動きの指導を行うことで日常生活での動きやすさを実感してもらえようとする。リモートでの運動指導を取り入れるなど、飽きの来ないプログラムを作成し、運動への取り組みを継続できるようにする。
- ・興味のあることや生活をするうえで必要な作業等を聞き取りし、その方にあった生活リハビリや手作業を提案し提供できるようにした。
- ・コロナ禍でデイサービス以外の外出機会が減っているとお声を多数いただいた。体調不良以外は可能な限りデイサービスをご利用いただいた。臨時利用希望の方も多く臨機応変に対応した。アセスメントを経て利用者様のADL及びIADLの状況を把握した。機能訓練を実施し在宅生活に必要な身体機能の維持・向上に努めた。同居家族様のレスパイトケアも含め在宅生活継続の為にサービスを行うことで施設入所・入居される方は減少。コロナウイルス感染拡大の影響で自宅での担当者会議開催は困難でしたが、希望として歩行能力維持が多く上がっていた。運動プログラムの参加状況は良好であった。
- ・近隣スーパーへのお買い物や通院などへ外出できる能力を獲得できるよう歩行訓練や段差昇降訓練を中心に運動プログラムを提供しております。
- ・実績評価では「維持100%」を運動機能分野については「下がり幅を減らす」ことを目標に掲げました。昨年度から導入した「個別機能訓練加算」による個別機能訓練の機会も定着して参加率は高まっています。利用者の認識も出来たため、一日通して椅子に座りっぱなしで過ごす機会は以前に比べて減ってきました。また午後ラジオ体操は実施して、立位で取り組まれる方も多くおられ、一定の効果も生んだのではないかと評価しています。
- ・来所時には必ず20～30分の機能訓練を実施。又、個人が不安に感じている事、行いにくくなっていることをロープやペットボトル、踏み台を使った階段昇降を行い、個人メニューとして実施。身体状況を維持、又は改善に努めた。
- ・日常生活の中での動きを意識して、デイサービス利用時もエレベーターを使用するのではなく、職員と一緒に階段を昇降したり、洗濯物を一緒に干したり畳んだり、歩く距離を少しでも延ばすように、日常生活の中でしっかりと活動できるように心がけてケアをするようにしました。ですが、新型コロナウイルス感染症対策を徹底している中であつたため、色々制限もあり、難しい状況でした。そうした中で改善、維持できたことは良かったと思います。
- ・続くコロナ禍での外出の減少で、徐々に運動不足が蓄積し、生活習慣病の悪化や持病が悪化される方が増えてきており、歩行能力は維持できても、バランス力などの全身の筋力が徐々に低下し転倒する方が増えていました。半日型のデイサービスなので、食事管理などができない分来所時は出来るだけ運動をしていただき、ご家族様とも連絡を取り合いながら健康面の管理を促すようにしてきました。また、ご利用者様にも、転倒の危険を定期的にお伝えし、自宅での運動の重要性をお伝えしてきました。
- ・他職種で個々に応じたプログラムを設定し支援を行ってきた。また利用者や家族にも現状の課題やその改善にむけた取り組み内容を理解・把握していただき、自らでも実践していただくよう支援した。そして、フレイル予防の為に運動面だけでなく栄養面にも着目し、施設だけでなく地域の特性や強み・インフォーマル面も活用した取り組みを意識した。

改善（維持）の要因分析（事業所としての強み）

（多かったキーワード）

- ・事業所の特性（大規模/地域密着、古民家、移動距離、生活訓練 等）
- ・職員（職員間連携、ICT、関係機関との連携、明るい雰囲気、社内研修 等）
- ・利用者（利用者の嬉しい声、レク作品の完成度 等）
- ・食事（栄養を考えた食事を提供できる）

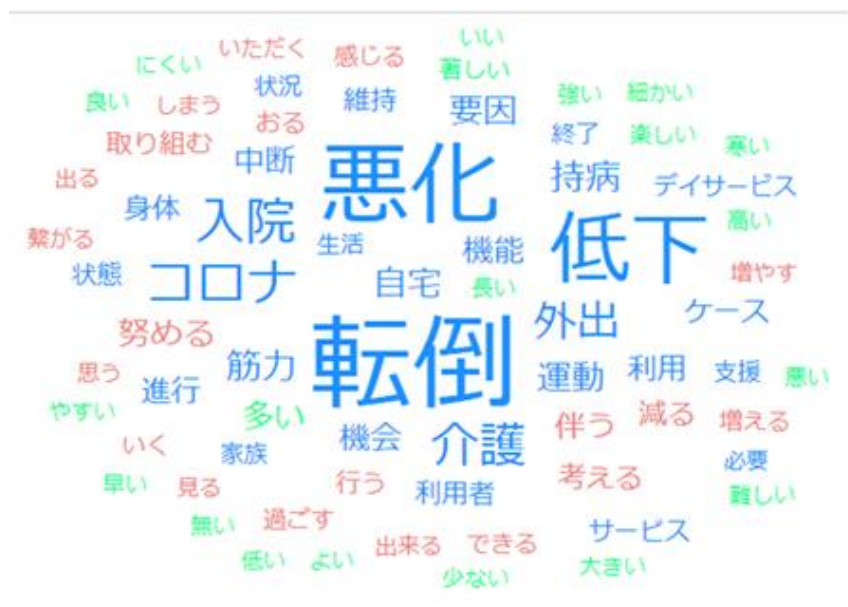


（AI テキストマイニングによる分析）

悪化・サービス中断の要因分析（事業所としての反省点・課題・対策）

（多かったキーワード）

- ・生活環境（一人暮らし、引きこもり）
- ・認知機能の低下
- ・転倒・骨折
- ・加齢・持病



（AI テキストマイニングによる分析）

6. 全体の考察

今年度も当レポートにより、各事業所が個々の利用者のことを考えながらサービス内容を工夫し、強みを伸ばしている様子がうかがえた。また、悪化・サービス中断の要因分析から、自己分析を行い、次年度以降に活かしている。引き続き、「利用者の心身機能の維持回復や生活機能の維持向上」のためサービス内容の質の向上を目指し取り組んでいただきたい。